平成 25 年度活動助成 活動実績報告書

団体名	公益財団法人公害地域再生センター（あおぞら財団）
活動テーマ	高齢者の災害記憶の収集と活用　　ー復旧時の地域コミュニティ活動についてー

本活動では、過去に大規模な災害が起こっている大阪市西淀川区を対象に、高齢者が有している過去の災害における個人の記憶を収集することにより、地域コミュニティが災害復旧時に果たした役割を把握しました。次に、収集した記憶を掲載したニュースレターを作成・配布し、地域での自主防災意識や地域愛着の向上にはたらきかけました。活動を実施する西淀川区は、淀川、神崎川に挟まれ大阪湾に面しており、土地が海面よりも低いゼロメートル地帯であることから、津波や豪雨などによる水害に弱い地域です。

まず、文献・ヒアリング調査を通じて、西淀川区の災害記憶を掘り起こしました。この結果、過去の水害における近隣の人々や自治会による助け合いが行われた様子、個々人が工夫しながら水害を乗り越えた様子を把握することができました。こうして得られた情報を、ニュースレターや展示物としてとりまとめ、地域の子育ての集まりなどでのお話会で報告する機会を設けました。

ニュースレターは、アンケートとともに無作為抽出で 1,000 世帯に送付し、256 人からの回答を得ました。アンケート回答者によると、阪神・淡路大震災については 6 割の方が被災経験がありますが、水害（室戸台風・ジェーン台風・第二室戸）については、4 割にとどまっています。時間の経過とともに、被災経験のある方が減っていくのと合わせて、西淀川区は人口の流入・流出が大きいこともあり、過去の災害経験の伝承が必要な時期に来ていると思われます。今回配布したニュースレターの感想としては、「もっと詳しく過去の災害について話を聞きたい」という回答が 5 割を超えています。

今後は、今回とりまとめた災害記憶を情報発信することで、災害のイメージを持つとともに、地域でのどのような助け合いが行われたのか、次の災害に対しての備えを検討する題材としたいと思います。